

知



新しい発見がある

修学旅行



過去と未来を考える

美



匠の技にふれる

生



伝統と共に生きる

のための日の光ガイド

特集① 地元の元校長が考える世界遺産の大切さ

特集② 「二社一寺の案内人が語るおすすめ日光カイト」

特集③ 自然解説員が語る「日光の自然を楽しもう！」

日光の歴史 ～深く多彩な1300年～

奥日光の自然



ACCESS MAP 広域地図からのアクセスマップ



栃木県日光市観光部観光振興課
〒321-1292 栃木県日光市市本町1番地
TEL.0288-21-5170 FAX.0288-21-5121
URL <http://www.city.nikko.lg.jp/>

日光の特産物



お線香



水羊羹



志そまきとうがらし



日光手打ち蕎麦



日光彫り



湯波

〈教育旅行をお考えの方へ〉
小学生のための
日光
NIKKO TOCHIGI JAPAN

CONTENTS

目次

- P2 …… 日光市全図
- P3 | P4 地元の元校長が考える **世界遺産の大切さ**
- P5 | P6 二社一寺の案内人が語る **おすすめ日光ガイド**
- P7 | P8 自然解説員が語る **日光の自然を楽しもう!**
- P9-P12 …… 日光の歴史～深く多彩な1300年～
- P13-P15 …… 奥日光の自然
- P16 …… 足尾で環境問題を学ぶ
- P17 …… 藤原・栗山・今市エリア
- P18 …… 日光のおすすめ体験学習
- P19-P20 …… 事前学習 世界遺産 日光二社一寺の歴史を学ぼう!
- P21 …… 日光仮面が教えます! 日光ガイドブックダイジェスト!
- P22 …… コピーして使える 修学旅行当日に使える便利リスト



日光の豆知識

- P4 日光の豆知識① 意外な発見
- P6 日光の豆知識② 堂者引きとは
- P8 日光の豆知識③ 冬の奥日光を歩く
- P15 日光の豆知識④ ラムサール条約湿地

発行者:日光市

日光市全図



旧日光市エリアは、江戸時代に徳川家康および徳川家光の廟地となつて以来、日光東照宮の門前町として参拝客で賑わいました。明治時代に入ると、海外でも景勝地として知られていた日光東照宮や中禅寺湖、奥日光湯元温泉などを外国人が訪れるようになり、外国人に対応した宿泊・滞在施設が整備され、国際観光都市としての体裁が整えられていきました。

一九九九年には「日光の社寺」が世界遺産に登録され、二〇〇六年に旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧足尾町、旧栗山村が合併し、現在の日光市が発足。市内の観光地景勝地としては、日光の社寺や、

日光連山、中禅寺湖、華厳ノ滝、竜王峡、戦場ヶ原、湯滝、湯ノ湖や日光湯元温泉、鬼怒川温泉、川治温泉、湯西川温泉、鬼怒沼湿原、龍王峡、足尾銅山などがあります。



動画
世界遺産
「日光の社寺」動画



世界遺産の「日光の社寺」の「歴史的背景」「建造物群の特徴」「未来へ継承するための保存・修復」を紹介!



日光市観光PR動画
「Re:NIKKO」



「誰もが知る定番の日光」はもちろん、四季を通じた「新鮮な非日常の日光」も次々と登場します。



ナビゲーションアプリ
日光街歩きナビ

日光の観光と防災の情報をシームレスに連携した便利で安心な観光防災総合アプリです。スマートフォンやタブレットで手軽にご利用いただけます。



App Store (iOS版)
Download on the App Store



Google Play (Android版)
ANDROID APP ON Google play

【地元の元校長が考える世界遺産の大切さ】

高田 雄康

1944年旧日光市生まれ。
宇都宮大学を卒業後、38年間にわたって日光市内の小中学校などで教鞭を執り、2005年日光東中学校校長を最後に退職。現在、白鷺大学講師。



元校長先生の高田さんは日光を「日本人の精神性が最もよく残っているところ」と表現します。「日光東照宮には、いたるところに平和を願うメッセージが盛り込まれています。厩の猿の彫刻は人間の一生をたどっていて、人の生きる道を教えます。陽明門の子どもの彫刻には、子どもを大切にすると平和な世への願いが込められているのです。現代風にいえば、平和をテーマにしたテーマパークともいえるのではないのでしょうか。」

また、日光二荒山神社と日光山輪王寺は、もともと山岳崇拜と仏教が結びついた『神仏習合』

の考え方が基礎になっている、と指摘します。「日光の山々は、男体山が父親、女峰山が母親、その子どもが太郎山というように家族になっています。そしてそれぞれにその神様が祭られています。さらにそれが仏様として表れているのが、三仏堂にある三体の仏像です。平和の基本となるのは家族愛です。こうした思想でつくられたのが、日光二荒山神社と日光山輪王寺で、ここにも平和への願いが込められているわけです。」

日光を訪ねたら、このような背景をしっかりと学んで帰ってほしいと訴えます。

高田さんは日光の社寺が世界遺産に登録された一九九九（平成十二）年当時、日光市内の小学校で校長を務めていました。市内は観光面での活性化への期待から大きな喜びに沸きました。

担当している教科が社会科だったこともあり、教育的な立場からも世界遺産登録の意義を伝えていく必要があるとの思いを強く持った、と高田さんは言います。「そこで私を委員長として、何人かの先生に集まっていたいただき、資料作りを取り組むことになったのです」と当時を振り返ります。

専門的な内容に関しては二社一寺や文化財保護関係者らの協力を仰ぎながら、「わくわく！日光の社寺たんけん」と題した小学生向けのガイドブックを作り上げました。「日光二荒山神社・日光山輪王寺」「日光東照宮」「日光の社寺ゆかりの人々」の三部構成になっており、日光の社寺が複眼的にとらえられるようになっています。

イラストをたくさん使い、クイズを解きながら、楽しく日光の二社一寺を巡っていくと、さまざまな「なぜ」が解明されていく構成です。主としては小学校四年生から五年生を対象にしていますが、平易な表現ながら極めて水準が高く、先生の教材としても十分に耐えられる内容です。



「わくわく! 日光の社寺たんけん」

わくわく!
日光の社寺たんけんホームページ
<http://www.nikko-syaji-tanken.jp/>



このガイドブックは日光市内の各小学校に配られて授業に活用されました。バイナード方式になっていて、その後も毎年少しずつ新たな内容が追加されながら引き継がれ、今でも教育現場で利用されています。

元教師であるだけに、事前学習の重要性はよく分かっています。「日光を深く知るために、ぜひガイドブックを役立ててほしいと思います。自由に使うてもらえるよう、ネットに掲載しています。日光市『日光の社寺』のホームページからも入れますよ」と高田さん。

こうした活動が基礎になって

実現したのが、『日光こども歴史探検隊』です。毎年九月に行われるツアーウォークのイベントの際に、子どもたちが史跡ガイドとなって活躍しているのです。「訪れるお客さんたちも小さな案内役をとっても喜んでくれています」。指導役は、二十年前頃から活動している市民ボランティア「ア団体『ふるさとボランティア』」の大人たち。世代を越えた協力体制が進み、取り組みが着実に実を結んでいることに高田さんは目を細めます。

日光の社寺が世界遺産に登録された翌年、世界遺産のあるまちの子どもたちが集まって、『世界遺産こどもサミット』が開かれたことがあります。「今回、岩手県の平泉の文化遺産が世界遺産に登録されたのは、絶好の機会ではないでしょうか。これを受けて、もう一度同じような催しができるかという夢を持っています。子どもたちの成長は、地域の活性化にもつながっていきますから」。退職後も、未来を担う子どもたちを見つめる

目には期待がこもります。

高田さんは日光で生まれ育ちました。「戦乱をくり抜けた徳川家康が平和を願い、その土台をつくったことは事実です。建物や彫刻の見た目の美しさはもちろん素晴らしいのですが、それとともに精神的な側面がもっと見直されていいのではないのでしょうか。日光は『平和のまち』であることを前面に打ち出していくべきだと思いますね。これだけ素晴らしい文化が栄えたのは、平和であったからこそ、と考えています。」



日光連山

世界遺産 「日光の社寺」 動画

世界遺産の「日光の社寺」の「歴史的背景」「建造物群の特徴」「未来へ継承するための保存・修復」を紹介!



YouTube
Youtubeにリンクします。

日光豆知識① 意外な発見

歴史が古いまちだけに、日光には見過ごされがちな場所で意外な発見ができる可能性があります。例えば高田さんの家の周辺は、東照宮を建てる際の作業場だったとのこと。「ここであらかじめ組み立てて現場での作業をやすくしたようです。なんでもないので見える石が作業用の土台だったりするんです。」

西行や芭蕉にまつわる史跡もたくさん残っており、修学旅行をきっかけに日光に興味を持ったなら、次は『自分だけの日光』を探しに訪ねてみるのも面白いかもしれません。

二社一寺の案内人が語る 「おすすめ日光ガイド」

「日光には江戸時代の文化がそのまま残っています。こうした歴史をしっかりと知ることは、実は今の私たちがどう生きればいいのかを理解することなのです。」

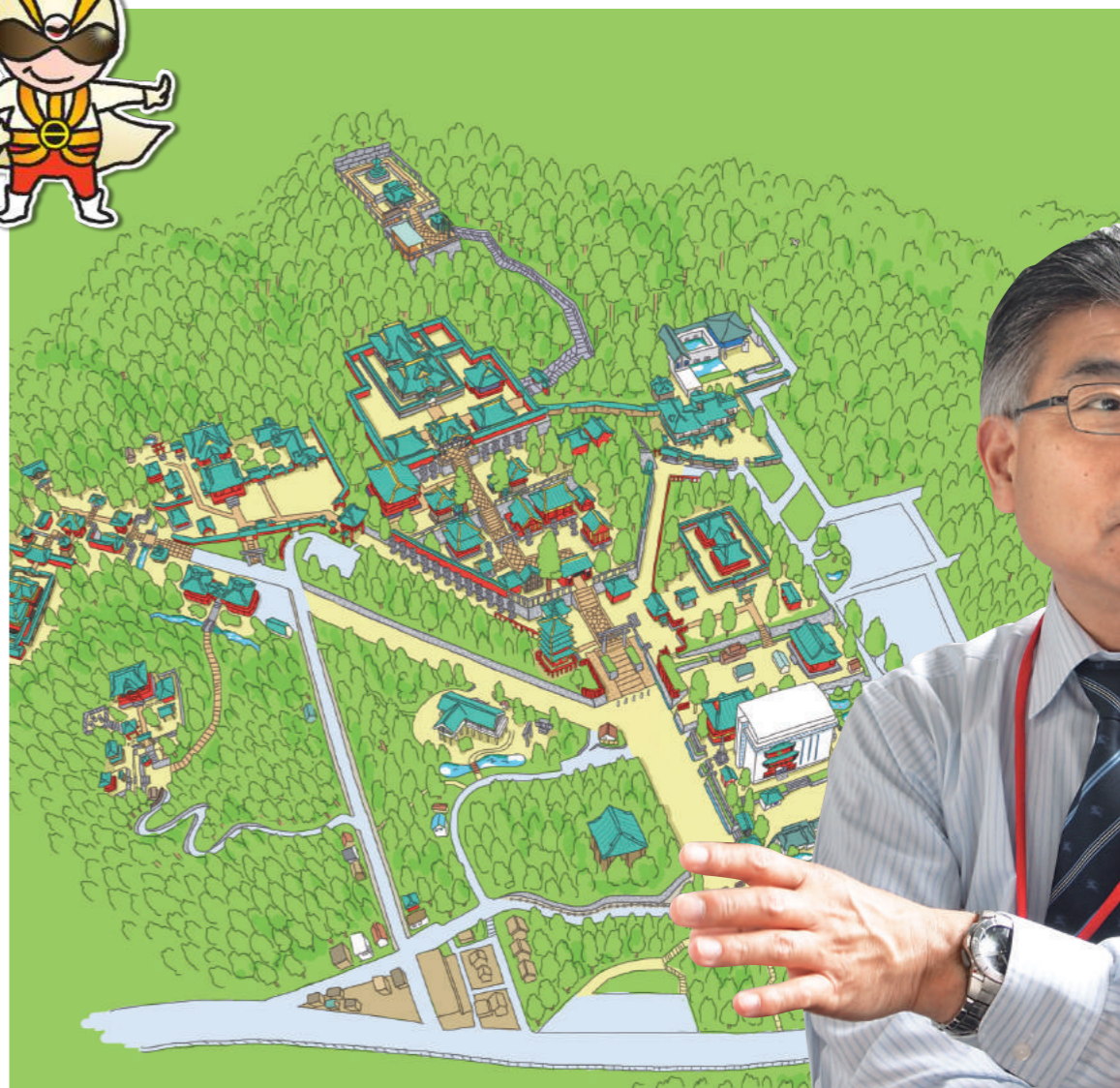
こう語るのは、日光二社一寺の案内人を務める日光殿堂案内協同組合の春日武之理事長です。

例えば「見ザル、言わザル、聞かザル」の三猿で有名な猿の彫刻。二六匹の猿が八面に彫られています。春日さんは、これらは人間の一生を表している、と言います。

「額に手をかざして彼方を見ている母猿は、親が子どもの将来を見定めようとしているところ。それを説明しながら、木の上に立って子どもが遠く歩む姿を見る『親』という漢字の成り立ちなども話すようにしています。」一通り説明した後、去り際に全体を振り返ってもらい、「人生」を考えてもらおうようにしているそうです。



赤いジャケットが案内人のユニホーム



春日さんは「日光の社寺には私たちの生き方への教えがたくさんあるのです」と語ります

また、陽明門には「いじめ」や「ケンカ」をしている子どもを描いた彫刻が見られます。「昔はケンカをするにしても、げんこつで殴ってはいけない、あるいはひとしきり取っ組み合って決着がつけばそれで仲直り、というような暗黙のルールがありましたよね。彫刻を見ながら子どもたちにそんな話もするんです。」そのほかにもさまざまな場面の子どもたちが表現されていますが、家康公は平和の象徴である子どもを描くことによって、世の中の平穏を祈ったのだらうと春日さんは言います。眠り猫の彫刻も、猫と一緒に弱い者の代表であるスズメが描かれています。これは弱者も共存できる世の中の実現を目指したことの表れとのこと。



陽明門の彫刻「唐子遊び」



春日 武之
1951年 旧日光市生まれ。
1977年 日光殿堂案内協同組合に入所し、以来案内人一筋に歩む。
1987年 同組合理事長に就任。

■日光殿堂案内協同組合
〒321-1431 栃木県日光市山内 2281
TEL: 0288-54-0641

■大日光観光ガイド株式会社
〒321-1432 栃木県日光市安川町 2282
TEL: 0288-54-3545

二社一寺の建物や彫刻にはすべてに意味があり、教えがある、と春日さんは指摘します。「どんなことでもいいので新しい発見、驚きを持ち帰ってもらえればうれしいですね。」春日さんは九六歳の老紳士を案内したことがあります。どんなに時間がかかってもいいから、二社一寺のすべてを見たいとの要望だったそうです。心臓が悪いため、医者をしていいる息子さんが同行して、五時間かけて巡ったそうです。



日光東照宮 流鏝馬神事



日光東照宮 百物揃 千人行列

日光豆知識 ② 堂者引きとは

江戸時代にも二社一寺を案内する案内人がいて、「堂者引き」と呼ばれました。始まりは1655(明暦元)年といわれています。江戸幕府が許可した人だけに許され、男性だけができた仕事でした。

明治以降は警察「日光分署長」の許可を得て活動し、戦争で案内人の大半が応召した際には、唯一残った男性がその伝統を守ったという逸話が残っています。

昭和27年に事業協同組合となったのを契機に、女性の案内人が誕生し、現在も活躍しています。

戦場ヶ原 MAP



夏の戦場ヶ原



ガイド風景の様子



ワタスゲ群生



自然解説員が語る

日光の自然を楽しもう!

奥日光の概要・魅力

奥日光の魅力は滝・川・湖・山・森・湿原…と挙げてみればきりがなく、奥日光という地域一か所に様々な環境があります。特に水辺が好きな自分にとって湯滝から湯川沿いに戦場ヶ原を抜ける定番コースでは四季を通して実にさまざまな生き物と出合えるおすすめのコースです。

自然解説員とは

自然解説員はそこにある自然やその背景を相手に伝える仕事です。自然と人となぐ橋渡しの存在なので、自分が主役ではなく自然が主役なのだという意識を持って行っています。

自然解説員になったきっかけ

小さい頃から地元大阪の水辺で生き物たちと親しんでいました。高校卒業後、子供の頃に全力で自然と遊んだ記憶から生き物たちと関わりたいという気持ちが強くなりました。さらにビオトープという生き物の生息地を守るための手法を知り、学ぶために環境系の専門学校に進学しました。

学校ではビオトープの造成・施工管理について学びました。しかし二年次のインターンシップ中、

は自然解説員になってよかったなあ実感します。

自然の知識をひけらかすだけでは、受け手側からすれば「関西弁のお兄ちゃんがなんか気持ちよくしゃべってた」という単なる自己満足で終わってしまうと思うので、参加者の自然に関する興味・度合いや、構成、性格、体調などをガイド始めのうちからできるだけ汲み取り、それを考慮して解説できるように心がけています。

小学校でのビオトープ造成プログラム内に環境教育があり、自分たちがこの地域の生き物たちを守るんだという意識をもたらず内容で、それを聞いた生徒たちは作業の工程ひとつひとつを丁寧に土運びなどのつらい作業も誰も文句を言わず楽しそうに行っているのを見て、人の意識をこうも変えられる環境教育ってすごい、自分も環境教育者になりたいと思いました。

ガイドの時、話している内容

修学旅行に来る児童を相手にするガイドが多いので、自然体験内容は五感で遊ぶことに重点を置いています。ただ一つの感覚だけでは体験内容を忘れてしまうと思うので(これはもったいない)、五感をフル活用することで大人になってもずっと記憶に残るような体験をしてもらいたいと思うよう



お子さんに向けて生き物を解説している様子

日光豆知識 3

冬の奥日光を歩く

奥日光は冬も魅力的です。日光自然博物館は、毎年1月～2月に雪の奥日光を歩く観察会を開催しています。スノーシューを使って雪の森を散策するのです。

スノーシューは昔でいう「かんじき」。子どもでも安全に雪の上を歩くことができるので、家族連れに人気を呼んでいます。最近は学校単位での参加も増えてきました。

冬でも多くの動物は活発に活動しています。雪の上の足跡やフンはとてもよく目立ちますので、生き物の暮らしがより一層分かります。



足立 祥吾

1995年大阪府羽曳野市生まれ。小さい頃から水辺の生き物が好きで、環境系の専門学校に進学し「ビオトープ」を学ぶ。その中の環境教育に興味を持ち、現在日光自然博物館で自然解説員を務める。

栃木県立日光自然博物館

〒321-1661 栃木県日光市中宮町2480-1
TEL:0288-55-0880 FAX:0288-55-0850 URL:www.nikko-nsm.co.jp/

日光の歴史

～深く多彩な1300年～

文=岸野 稔
text: minoru kishino

はじめに

「関東平野の最北端にして奥州の喉元」(『日光市史』)に位置する日光の歴史は、時のわが国の政治・文化の中心地との諸関係を背景に、地方にありながら驚くほど多彩である。内外から年間数百万人の来見者を迎える世界的観光都市日光の歴史を、深く多彩な側面に留意し素描する。

なお、山内地区の社寺建造物群103棟(国宝9棟、重文94棟)と周辺の自然環境が一体となった文化的景観は、平成11(1999)年ユネスコより「Shines and Temples of Nikko(日光の社寺)」として世界文化遺産に指定され、日光国立公園(昭和9年指定。平成19年尾瀬地域分離独立)の指定同様、歴史に輝かしい一ページを刻した。

1 原始・古代・中世

山岳信仰

奈良・平安仏教の東国布教

下野出身高僧の活躍、開山・発展

2000メートル級の高山が林立し地域の9割が山地でしかも厳寒の地という厳しい自然条件の日光にも、人間活動の足跡は早く、

大谷川左岸の所野や山久保・小来川に縄文時代の小規模遺跡が点在する。男体山頂(2486メートル)には古代・近世に到る祭祀遺跡があり、各種密教法具等遺物数千点が出土し(一括重文指定)、男体山を御神体として崇める古くからの山岳信仰の盛行が知られる。律令体制の整備とともに下野国府が思川右岸低地(現栃木市田村町)に置かれ、東大寺戒壇設置7年後の天平宝字5(761)年下野薬師寺にも設けられ、東国仏教界の中心を担った。芳賀郡高岡郷(現真岡市)出身の勝道上人は下野薬師寺で授戒後、遙か北方に聳える補陀落山(二荒山・男体山)を開くことを決意し、天平神護2(766)年大谷川を渡り北岸に四本龍寺・本宮神社を創建し活動の拠点とした。男体山登攀三度目の天応2(782)年山頂に立ち、翌々年中禅寺湖北岸に神宮寺(中禅寺)を創建し、諸功績から桓武天皇より上野国総講師に任じられ、仏寺建立・民衆教化に努め弘仁8(817)年入寂した。上人没後、上人の従兄弟にして東大寺で授戒し共に苦修練行した教曼が日光山第2世座主職に任ぜられた。都賀郡出身(延暦13(794)年生。生誕地は壬生町、栃木市の

二説)の慈覚大師円仁は、延暦寺で最澄に師事、師の東国布教に随行、後入唐し仏法を学び在唐9年、帰国後第3世天台座主となり天台教学確立と東国布教に努めた。帰朝間もない嘉祥元(848)年に来見し、恒霊山南麓に金堂(現輪王寺三仏堂。本尊は正面右手より千手観音・阿弥陀如来・馬頭観音)、常行堂等を創建、修行の拠点とした(輪王寺に伝わる秘曲舞の「延年の舞」も大師由来とされる)。なお、嵯峨天皇の弘仁11(820)年には弘法大師空海が来見し、中禅寺湖岸に般若寺・四條寺建立、滝尾神社・寂光神社および鉢石山観音寺等勧請の説がある。

鎌倉幕府との深い関係 日光山の興隆 貴族・皇族出身座主

古くからの山岳信仰に奈良・平安仏教が加わり、神・仏が渾然となった日光山の宗務関係全般を統率するのが座主職で、代々勝道上人遺弟の高僧が就いた。後、日光山は勢力を伸張させた在地有力豪族との関係を深め、平安末・源平争乱期には彼らを巻き込んだ座主職争奪(17世禅雲と18世隆宣の対立)から山内に兵火が及ぶ混乱を来した。鎌倉幕府は日光山を重視、頼朝は外戚観纏を19世座主にして混乱を鎮め、日光山と源氏・幕府との関係は一層深まり、以後座主職には將軍・北条執権等の関係者が就任した。頼朝は文治2(1186)年下野寒河郡の田地15町を日光山常行堂の「三味田」として寄進。また將軍実朝の護持僧にして24世弁寛は、仁治元(1240)年光明院を本坊とし(古来からの本院たる四本龍寺は抗争により焼失)、翌年実朝菩提供養のために三重塔建立(移転し現四本龍寺境内)など日光山興隆に尽力した(日光山中興の祖)。建長5(1253)年藤原氏出身の尊家が鎌倉勝長寿院別当と26世座主を兼ね、以後この職に藤原氏・皇族出身者(特に28世仁澄以降14世紀に7名の皇族座主)が続ぎ、京都・鎌倉との関係がさらに深まった。時の権威・権力との密接な関係の下、堂社建立がなされた日光山は「衆徒36坊、支坊300余」、その所領は「往古社領66郷」(新日光市の大部分、鹿沼市・宇都宮市の一部)と広大であった。この時期日光山別当の多くが天台座主に就くなど、日光山の宗教的権威と世俗的實力は他を圧し、繁栄は周辺地域におよんだ。

門前町の萌芽 日光修験の確立・全盛

この後、14世紀末貴族出身の37世慈玄を最後に座主の宣言は途絶え(第2世教曼以来約600年。光明院廃絶)、座禅院住職が御留守居権別当として座主に代わり山務を執る(慶長18(1613)年天台が日光山貫主となるまで)。これは中央権力・権威の弱体化・低下に伴うものであり、以後日光山は在地有力武將(壬生氏等)関係者

が山務を統括しその勢力との関係を深める。ただ、幕府衰退と応仁の乱等の世の混乱とは別にこの時期、日光山は比較的平穏であった。永正6(1509)年来見の連歌師柴屋軒宗長の記した一文「東路の津登」は、当時の日光山および門前地域の繁栄を伝え興味深い。(左上図参照)

なお、勝道上人による開山以降、天台・真言密教の影響を受けて日光連山を巡る入峰修行(日光修験)が活発化し、鎌倉末期には形態も整い、南北朝期・室町期に全盛を迎えたといわれる。「三峰五禅頂(春峰・夏峰・冬峰の行の三峰と、五隊に分かれて秋に行った入峰修行の五禅頂)」や男体禅頂(今日の二荒山登拝祭)や中禅寺湖畔の霊跡を巡拝する「浜禅頂(船禅頂・補陀洛禅頂)」などの修行がなされた。時に死者の出る厳しい入峰修行も、16世紀末ごろには儀礼化・形式化が進んだ。そして今日、日光連山の各所には修験関連遺跡が点在し、修験盛んな往時の姿の一端を伝える。

2 近世

試験の時① 所領没収、復活

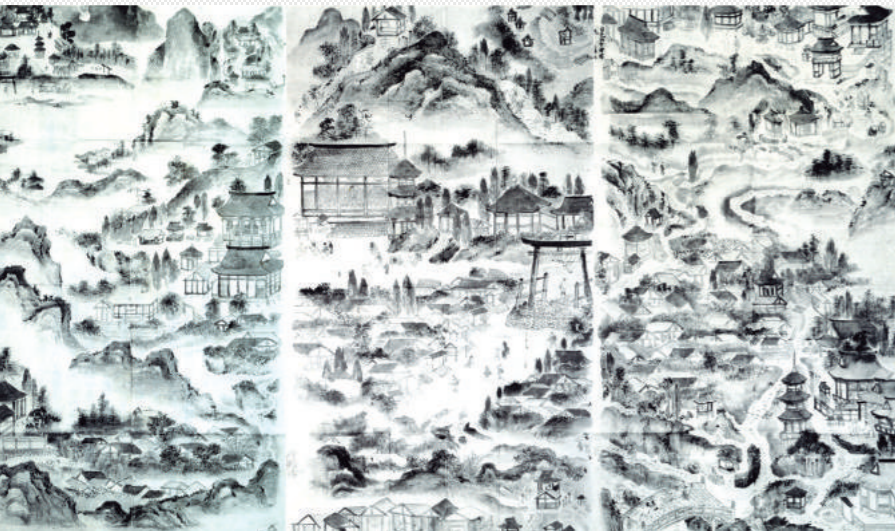
「聖地日光山」の誕生
再度皇族出身座主(輪王寺宮)

天正18(1590)年北条氏が討った秀吉は、小田原方に組した日光山の所領66郷寄進地(含め71郷)のうち、山内の寺屋敷・門前鉢石町・足尾村を残しほとんども没収、坊舎は多く断絶し衆徒等は山を離れ日光山は衰微の一途を辿った。元和2(1616)年徳川家康が駿府にて薨去し久能山に葬られ、翌年東照大権現の神号が勅賜され新造営の東照社に改葬された。祖父家康を尊崇した3代將軍家光は東照社を大改造(寛永大造営)。ほぼ今日の東照宮の姿となる)、寛永13(1636)年東照社21回神忌を盛大に執り行った。家光は慶安4(1651)年薨去、翌々年祖父の墓所に近い大黒山に大猷院廟が造営された。

神社・寺院と民家が混然とした山内に、絶対権力により東照宮・大猷院等が造営されたが、それは必然的に旧来の堂社・民家の大移動を伴った。山内の聖・俗は明確に分離されて堂社配置はほぼ今日の姿となり、山外に移転した俗家を加えて市街地は再編され門前町の大枠が確立する。日光山は古来からの宗教的権威に加えて新たに家康・家光両將軍の墓所を戴く国家第一級の「聖地」として神聖化される。

東照宮の日光山勧請の功績者慈眼大師天海は、慶長18(1613)年家康より日光山貫主(座主。日光山53世)に任ぜられて光明院を再興、彼の下で多くの寺跡が再興され、山内・山外の門流を真言から天台に改流した(江戸期日光山は「衆徒20カ院、別当5カ院、80坊」。日光山興隆とともに承応3(1654)年後水尾天皇第3皇子守澄法親王が日光山貫首となり、翌明暦元年(輪王寺宮)号が勅賜され、日光山は再び皇族座主を迎えた(住する寺院「輪王寺門跡」、その長「日光門主」。以後、明治2年公現法親王が生家伏見宮に復籍するまで皇族座主は12人13代にわたった。

秀吉により僅か700石程度となつた領地は幕府成立直後そのまま安堵されたが、東照宮など造営に伴い次第に増殖され、江戸期「日光御神領」は概ね2万5千石、72カ村(幕末期)であった(新日光市および宇都宮市などの一部の範囲)。日光山の社寺諸行事など宗務一切は門跡門主を頂点に組織され「祭政一致」の観があった。幕府は諸造営の一段落する元禄13(1700)年日光奉行を設置、次第に日光山の自治的権限を縮小し、「寛政の改革」下の寛政3(1791)



中世末ごろの日光山主要部および門前集落
(図中央に金堂三重塔等、下部に門前集落「日光市史」上巻より)

年に代官職の「目代」山口氏を罷免、従来氏の執行した貢租徴収など庶政執行権を奪い直接支配を強めた。

日光詣、日光土産、門前町の繁栄

幕府の庇護の下に日光山の宗教的権威は高まり、これを直接・間接に支え経済活動を担う山外・集落も充実発展する。「聖地日光山」への参道として日光・例幣使・会津西の三街道が整備され、これらは今日「日光杉並木街道」として特別史跡・特別天然記念物の二重指定を受ける。將軍の東照宮参拝（社参）は元和3（1617）年の秀忠から天保14（1843）年の12代家慶まで都合19回、例幣使は正保3（1646）年から慶応3（1867）年まで222年間毎年実施され、その他大名から庶民まで「聖地」へ多数の「日光詣」の人々が訪れた。来暁者は社寺の長い歴史と山間の風土から生まれた日光紫蘇卷唐辛子・日光煉羊羹・日光湯波・指物曲物漆器などの「日光土産」を求め、町は大いに賑わった。

日光の市街地は神橋を境に東町・西町にわかれ、東町は「鉢石宿」として宿泊・商業機能の卓越する門前町・鳥居前町、西町は院坊・社寺奉仕者・奉行所と社寺関係者・設する。工場は足尾産粗銅と古河関連銅山からの粗銅を集め、中禅寺湖からの豊かで安定した水力利用の自社発電で（38年の別倉以降、細尾第1〜第4の計5カ所の発電所）、精銅および製品化等に利用した。電源地・原料地立地の精銅所は足尾産出銅の増加に伴い業績を拡大し、工場周辺には関連会社・従業員の社宅住宅などが建設され、清滝安良沢町・清滝和の代町などの集落が生まれた。日光に工業という全く新しい機能が付与され、大谷川の山間に工業地域が出現した。

躍動② 「観光日光」の誕生

明治になっても東町の通り中央には水路が、加えて急傾斜の通り各所に石段があり、近代交通には障害以外の何ものでもなかった。明治9（1876）年天皇の東北巡幸に際し来暁時の不便を動機とし、16年県令三島通庸により水路の側溝化・石段の撤去等道路改修がなされた。さらに21年日光・細尾間馬車鉄道（後、牛車）、23年日光・宇都宮間鉄道、43年日光・岩の鼻間電車軌道、大正14（1925）年いろは坂を拡幅し乗合自動車運行、昭和4（1929）年東武日光線全通、7年馬返・明智平間ケ1

職人などが集住し、宗教機能と社寺修築等機能の卓越する社家町・僧坊町の性格を有した。東・西両町は堂社の定期的清掃や例幣使等登山時の道筋掃除など多種の夫役を負担し、しかもそれらは不定期で重い負担となった。なお、東照宮（例えば寛永造替の費用総額56万8千両、銀百貫目、米千石）や大猷院の造営、社殿修築等宮繕関係は多大の消費であり、幕府の直接負担であった。その他周辺には、所野・野口・七里・和泉・山久保・小来川などの純農村地域が開示した。

災害の頻発、備え

自然災害や大火に度々見舞われた「聖地」の安全・安心対策に幕府は腐心した。女峰山より一気に南下する稲荷川は荒れ川で幾度となく被害を与えたが、特に4代家綱の寛文2（1662）年の大洪水は左岸の稲荷町を襲い町を壊滅させ（流失家屋300余軒、同心10人・町人148人死亡）、町は現在地に移転した。天和3（1683）年の大地震では、家康・家光の墓所石造宝塔や山内各所の石垣などが崩壊し甚大な被害を受けた。「聖地」の警護・防火では、山内4カ所に番所を設置し常時「御殿番

ブルカーなど近代的輸送手段が次々と整備された。これら一連のインフラ整備の動機の一つは古河の精銅事業であり、もう一つが観光事業である。観光関係ではさらに多様な動きがあり日光は発展する。明治5（1872）年馬返以遠の女人禁制が解除され、信仰の山男体山にも外国人が登山する状況となる。水面標高1269メートルの中禅寺湖および周辺は避暑・登山・紅葉など四季折々の自然を求める多数の人々にぎわい、湖畔には禅頂小屋・茶屋から発展した旅館や土産店が立地し、中宮祠の集落が形成される。

日光最奥の湯元温泉の発見は古く、長く深山の秘湯として修験者などに利用されてきた。温泉は江戸期（名は中禅寺温泉、二荒山温泉等）中禅寺別所の管理下にあり、許可された湯守が湯宿（湯小屋）を夏季（4/8〜10/10）のみ営業、冬季は戸を閉め下山した。奥日光の諸規制の撤廃と市街地の電車軌道整備により、40年代には日光市街地から日帰り可能となった。大正4（1915）年スキー導入、同5年西沢金山向けの葛蒲が浜発電所から電気が通じ、大正末年のいろは坂拡幅での自動車通行可能化

が警護。承応元（1652）年設置の「火の番」（槍奉行配下の八王子千人同心）は当初山内（寛文の大洪水で本宮神社裏より四軒町へ移転）と鉢石町（後廃止）に番所が設置され山内を巡回警備し防火にあたった。厳重な警備の下でも幾度となく大火があり、特に5代綱吉の貞享元（1684）年大火は四軒町の火の番屋敷や輪王寺本坊・本宮神社など山内堂社の多くを焼き、東町の観音寺・民家などを総なめした。（左図参照）



江戸末期 日光東町の様子（『日光山志』より）



江戸末期 日光西町の様子（『日光山志』より）

3 近・現代

試練の時② 時代の大転換

戊辰戦争で大鳥圭介ら幕府軍は幕府祖廟の地日光山に籠もったが、板垣退助の深慮のもと堂社などが灰燼に帰すことは回避された。明治4（1871）年延期されていた神仏分離令が発せられ、「神領」を収公し日光山奉仕の衆徒・社僧を解任、神仏習合状態を日光東照宮・二荒山神社・満願寺（後日光山輪王寺）の二社一寺に分離、諸堂社の神仏区分、神地からの堂塔移転（特に三仏堂・相輪樑移転）など実施の大激震となり、日光山は混乱・困窮の極に達した。この危機的状況を脱するため様々な努力がなされたが、特に

混乱の中で朽ちゆく堂社の保護、保存を目的に設立されたのが保晃会で、安生順四郎・矢板武らが明治13（1880）年設立、全国より資金を集め（保晃金）、山林（保晃林・田地（保晃地）を購入し財産を強固にし、堂社修繕などに尽力）大正5（1916）年解散した。

躍動① 「工業日光」の誕生

慶長15（1610）年発見と伝える足尾銅山は江戸幕府直轄鉱山として17世紀末最盛期を迎え、産出銅はオランダまで輸出されたが幕末には休山状態となった。明治10（1877）年古河市兵衛が取得し、海外の最新技術導入などにより産銅量は急伸し、明治中期には全国有数の銅山となった（ただ、「足尾鋇毒事件」等の負の側面あり）。銅山開発には使用電力確保と産出銅および鉱山使用諸物資の輸送手段確保などのインフラ整備が重要である。このため23年間藤発電所設置等でエネルギーを確保、輸送路として渡良瀬川に沿うルート（街道および鉄道）と、19年細尾峠を越え高架鉄索で日光側に輸送し、23年開通の日光・宇都宮間鉄道を利用し東京に輸送するルートを確認した。古河鋇業会社は39年清滝に日光電気精銅所を新

などにより、昭和7（1932）年湯元スキー場が開場し旅館も通年営業可能となり、湯治場から観光・温泉・避暑・冬季スポーツなどの拠点として発展する。

近代と共に日光は、江戸期の「聖地」[全面依存の状態から、工業と観光という全く新しい二大機能を獲得・発展させ、第2次大戦等による停滞はあるが、戦後の日本経済の成長に支えられ順調に成長した。]

試練の時③ 成熟社会への対応

戦後一貫して世界的観光地にふさわしくインフラ・各種観光施設の整備・充実がなされる。本格的自動車交通時代を迎え、昭和29年第一いろは坂、40年第二いろは坂・金精有料道路、51年霧降高原有料道路、56年日光・宇都宮道路等次々と建設された。鉄道では34年国鉄日光線電化、東武日光線複線化・新型特急電車等投入で輸送力を増強し首都圏と直結した。

一方、人口は大正9（1920）年に1万9575人（旧小来川村含む）、最大が昭和30年の3万3490人で以後一貫して減少、現在（2017年10月1日）1万2828人である。来暁客数は戦後順調に増加し、昭和48年に最大の

約828万人を記録、以後700〜800万人で推移するが、90年代以降今日まで長期的減少・停滞を示す。工業関係では、一時期日本を支えた足尾銅山も昭和49年閉山、買鉱方式による粗銅生産も63年に終息し、足尾の銅と自社電力に支えられた日光の非鉄金属工業も、内陸立地による輸送コスト上昇と円高による安価な海外原材料の輸入増大等により退潮傾向にある。

近代日光の発展を文字通り担った2本柱（非鉄金属工業と観光業）は、維新より一世紀後の昭和40年代後半より歴史的転換期を迎えている。国内の同種工業の趨勢同様に日光の非鉄金属工業に昔日の勢なく、働く多くの人々は他地域に居を移し、清滝の工業地域は新たな展開を模索している。一方、成熟社会において観光に求める価値は、かつての量・団体・没個性・スピード・一過性・物見遊山から、質・個人・小グループ・個性・スロー・滞在・学び・地域連携（エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムなど）と変化している。価値観の転換は観光客に種々の財を提供してきた観光施設・商業施設・輸送施設等の新たな対応を促し、地域の変化を必然化する。

おわりに

日光は歴史の宝庫です。あなたの傍に立つ杉の大木に、今渡った橋に、橋の下の清冽な流れ等々に、この宝庫の扉を開く貴重なカギがあります。扉の背後には深く多彩な日光の歴史と共に、日光と繋がる日本の歴史が広がっています。その中にきつとあなたの住む地域と日光を繋ぐ細いあるいは太い糸があります。さあ、皆さん自身の手で扉を開けましょう！

【注】日光は旧日光市を、日光山とは寺院の山号であるが、本文では特に社寺の集中する近代以前の山内をいう。
【参考図書】『日光史』（星野理一郎昭和12年初版昭和52年再版）、『日光市史』（上・中・下巻日光市昭和54年）、『日光山輪王寺史』、『日光山輪王寺昭和41年』

【奥日光の自然〈1〉】

文=星野 初代
text: hatsuyo hoshino

星野 初代

日光ふるさとボランティアとして史跡のガイド、湯元ビジターセンターでは自然のガイドなどを務める傍ら、日光市環境審議会委員を務める。子どもたちの健全育成にも尽力。塾経営、家庭教師。



華厳ノ滝

ゆっくり歩いてこそ 日光の素顔に会える

奥日光のこと、好きの一言では済まなくなってきました。日光に生まれ奥日光の自然をガイドして二三年、二三年も付き合っていると、奥

日光の「私のどこが好きなの」「私とこれからどう生きていきたいの」と、まるで恋人のように質問してくる声が増えてくるので。

日光、そこは自然と歴史の宝石箱。貴重な二つの宝を合わせ持つ希少な存在です。地元では、いろは坂下を「日光」、坂上を「奥日光」と区

別して呼んでおり、いろは坂下を歴史エリア、坂上を自然エリアと大まかに分けてみても良いでしょう。

さて、その奥日光の自然という宝石は、どうしてこんなに輝いているのでしょうか。

その第一の原因が、関東以北最高峰の活火山・白根山(二五七八メートル)から東に連なる日光火山群の活動。数百万年前から明治時代までの火山活動で、変化に富んだ地形を造り上げてきました。その結果、

植物はAの地、bという植物はBの地でしか生きていけない、それが自然界の厳しさです。Bの地がだめになつたらbの植物をAの地に移せばイヤ、と人間の思い通りに命をコントロールすることは、ほとんど不可能です。ですから、地形の変化

が大きいほど、そこに適した植物が多種存在し、そこに多様な動物の世界が展開します。奥日光で、花を愛で、サルやシカに出会い、バードウォッチングを楽しみ、釣りに夢中になる……これらは全て、火山活

動による変化に富んだ地形があつてこそものなのです。

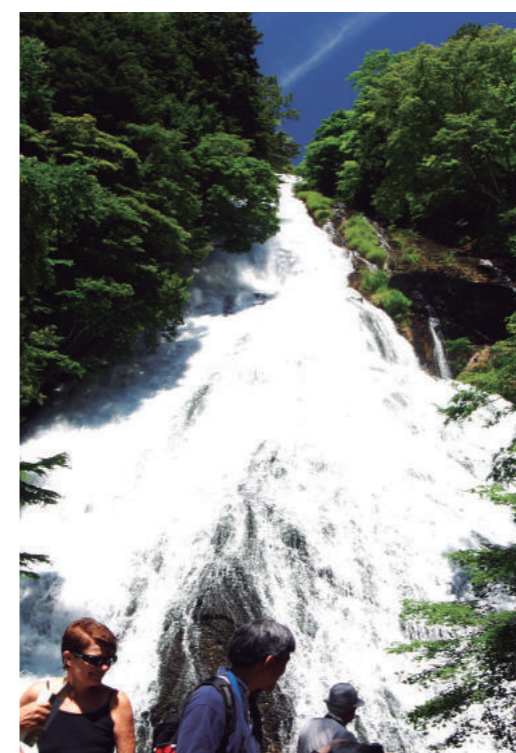
また、命のバリエーションの多さの要因には、複雑な気象も。奥日光は、太平洋と日本海のほぼ真ん中にあるので、太平洋型気候でもあり日本海型気候でもある、微妙な立場です。複雑な地形に複雑な気象が絡み合い、例えば、いろは坂ではドシャ降りだったのに中禅寺湖に着くと抜けるような青空とか、戰場ヶ原では男体山がキレイに望めたのに湯元に着くと一寸先も見え

いろは坂登り口から白根山頂まで、直線距離で二五キロメートルしかないのに高低差は一六〇〇メートル

てきた植物が寒さのために泥炭化し湿原となった、という生い立ちです。

以上もある、横幅より高さの方が大きいという驚きの地形に。その中に、山川・滝・湖沼・湿原・温泉……さまざま要素がギュッと詰まった箱庭のような景観です。奥日光と言えば、男体山(二四八六メートル)や、華厳ノ滝、戰場ヶ原(二四〇〇メートル)と具体的地名を思い浮かべる方も多いでしょう。ちなみに戰場ヶ原は、約二千年前の男体山の噴火で川がせき止められ湖ができ、約二千年前の男体山の再度の噴火で乾燥しつづつあった湖がさらに軽石流で埋め尽くされ、そこに生え

火山群が変化に富んだ地形を生むと、その地形が次に、変化に富んだ自然を生み出しました。奥日光と言えば、地名だけでなく、具体的な風景が浮かんでくる方も少なくないでしょう。小田代ヶ原の一本のシラカンバ・貴婦人、戰場ヶ原のワタスゲ、竜頭ノ滝のトウゴクミツバツツジ……。しかし、ツツジ一つをとっていても住む場所が決まっています。いろは坂の下から標高の高い所に向かって、アカヤシオ、トウゴクミツバツツジ、レンゲツツジ、ムラサキヤシオというふうには、aという



湯滝

ない猛吹雪とか。この激しい気象を生き抜くことのできる命だけが、この地に栄えるのです。

化する奥日光が、言ってくるのです。「私のどこが好きなの」「私とこれからどう生きていきたいの」と。

従って、変化に富んだ地形と変化に富んだ気象を両親に、奥日光の豊かな自然が生まれたと言ってもいいでしょう。これらを知ると、奥日光が、国立公園に指定されていたリラムサール条約に登録されているのも、納得していただけることでしょう。

この、飛び切り美しく、時に優しく時に厳しく、表情がくるくる変

ル回転させなければ、素顔の奥日光の真の良さが伝わってきません。



戰場ヶ原地図



中禅寺湖



戰場ヶ原(初秋)



明智平ロープウェー

私たちの日常生活と 奥日光の自然は連動

奥日光とどうやって付き合っていくのか。奥日光にいらっしやうした時だけ自然の礼拝者となり、ご自宅に帰れば人間は全ての自然の上に君臨しているのだと言わんばかりの暴君となってしまうのでは、奥日光に嫌われてしまいます。忘れないうでください、空気も水も地面も、あなたがお住まいの地とつながっていることを。奥日光の森林が造り出した清浄な空気は周辺に拡散し、奥日光の山々に降った雨や雪は川になり地下水になり関東平野を

潤して太平洋に注ぎます。その逆に、大都会の空気が、奥日光の高山に酸性雨を降らせることもあるでしょう。このように、あなたと奥日光は「つながっている」のです。奥日光の自然を愛し守っていくことは、すなわち、あなたのお住まいの地の環境を愛し守っていくことと同じなのです。
一三年間奥日光とお付き合いさせていただいた私は、恋しい地にこう答えたい。喜怒哀楽、あなたのどんな表情もみんな好き。これから



湯ノ湖



湯元雪まつり「雪灯里(ゆきあかり)」

は、あなたのフィールドで自分と自然はつながっているのだと体感してくださる方が少しでも増えるよう微力ながら活動していきます。と。
あなたも奥日光の懐に飛び込めば、奥日光の声が聞こえるかも？

近代日本の光と影

足尾銅山は二六世紀半ばには採掘が始まっていたといわれています。その後、江戸幕府直轄の銅山となり、産出された銅は日本全国へ送られました。東照宮や江戸城などの造営に使われたほか、足字銭と呼ばれたお金(寛永通宝)も鑄造されました。しかし、次第に産出は減っていきます。



足尾銅山閉山直後の製煉所。製煉所はまだ操業していた(1974年)

明治時代になって古河市兵衛が銅山経営に乗り出し、最新の技術を採用しながら、坑道の開削、製煉所や選鉱場の拡大、動力の電化、輸送体制の整備などに積極的に取

り組みました。

日本の近代化にとって、銅はなくてはならない存在でした。殖産興業の政策のもと、足尾銅山は急速に発展し、わが国で産出される銅の四割近くを占めるようになり、東洋一の銅山とうたわれるまでになりました。一九二六(大正五)年には足尾町の人口は三万八四二八人に達し、栃木県内では宇都宮に次ぐ規模になるほどのにぎわいを見せました。日本最初の本格的な水力発電所や近代的な橋、馬車鉄道といった施設が数多くつくられそれらの跡がかつての隆盛を今に伝えています。

一方で、日本で最初に公害が発生した地として「公害の原点」と呼ばれることにもなりました。明治二〇年代、足尾を源流とする渡良瀬川下流域に、鉱毒による大きな被害をもたらします。また、地元でも製煉所から発生する亜硫酸ガスによって作



日本初の本格的な水力発電所、間藤水力発電所遺跡

物や山林が育たなくなり、上流の松木村では暮らしに困り、とうとう廃村になってしまいました。

第二次世界大戦が始まると、軍事最優先の増産体制が続ぎ、鉱山労働者も戦争へ召集されました。労働力不足を補うため、朝鮮や中国から労働者が徴用され、多くの犠牲者を出しました。無計画に掘り出し続けた結果、銅山は荒廃します。戦後は復興されて採掘が続けられますが、一九七三(昭和四八)年、ついに閉山となりました。足尾銅山は、日本の産業発展に大きく貢献しましたが「負の遺産」も残しました。足尾地域では、影の部分も含めて地域全体を日本の近代化の足跡を学ぶ教育の場とし



ボランティアが多数参加して行われている植樹活動

ととらえ、特に「環境学習」の機会を提供することに力を入れていきます。近年は修学旅行の一環として足尾を訪ねる学校も増えてきました。そうした活動の拠点として「足尾環境学習センター」も設けられています。

足尾ではかなり前から国・県などによって山林回復事業が行われてきました。これに加え、一九九六(平成八)年からは、NPO法人「足尾に緑を育てる会」が、県とともに植樹活動に取り組み始めました。今では多数の人々がボランティア参加するようになり「育てる会」では修学旅行での体験植樹の指導も行っています。

日光豆知識 ④ ラムサール条約湿地

奥日光の「湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代ヶ原」が、2005年、「ラムサール条約湿地」に登録されました。ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。国際的に重要な湿地の保全を目的としています。

小田代ヶ原では一般車両の乗り入れが禁止され、低公害バスが運行されています。また、湯元では帰化植物のオオハンゴンソウの除去などの保全活動が行われています。



自然 **奥日光の自然学習** (一財)自然公園財団日光支部 (日光湯元ビジターセンター)

スライド上映や観察会で奥日光の自然を学べます。

【料金】無料
【定休日】水曜日
【営業時間】9時～16時30分
【住所】日光市 湯元
【問い合わせ】TEL: 0288-62-2321



自然 **足尾環境学習** 足尾環境学習センター

足尾銅山の歴史等を映像と資料で幅広く学習できます。

【料金】大人200円、高校生以下100円 (未就学児は無料)
【営業時間】9時30分～16時30分
【住所】日光市 足尾町銅親水公園内
【問い合わせ】TEL: 0288-93-2525



歴史 **旧英国大使館別荘見学** 栃木県立日光自然博物館

日光の奥に、19世紀の英国がある。

【料金】大人200円 小人(4才～中学生)100円
【営業時間】9時～17時 (11/11～11/30は9時～16時まで)
【住所】日光市 中宮祠2482
【問い合わせ】TEL: 0288-55-0880



歴史 **平家の里** 平家の里

平家落人の暮らしに想いを馳せる。

【料金】大人(高校生以上)510円、小・中学生250円 ※30名様以上は100円引
【営業時間】8時30分～17時(4/1～11/30) 9時～16時30分(12/1～3/31)
【住所】日光市 湯西川温泉1042
【問い合わせ】TEL: 0288-98-0126



歴史 **旧イタリア大使館別荘見学** 栃木県立日光自然博物館

近代の国際避暑地にタイムスリップ。

【料金】大人200円、小人100円(4才以上～中学生まで)
【営業時間】4～6月、9～11月: 9時から16時 7～8月: 9時から17時
【住所】日光市 中宮祠2482
【問い合わせ】TEL: 0288-55-0880



歴史 **日光山輪王寺写経体験** 日光山 輪王寺

静かな雰囲気の大広間で、心落ち着いたひとときを。

【料金】1,000円
【営業時間】9時～
【住所】日光市 山内2300
【問い合わせ】TEL: 0288-54-0531



特産品 **そば打ち体験** 手打ちそば日光の庄

こねたりのぼしたり、そば打ち体験をして試食もできる。

【料金】3,564円/1人～
【営業時間】11時～16時
【所要時間】約60分
【住所】日光市 今市600-1
【問い合わせ】TEL: 0288-21-3910



伝統工芸 **日光彫体験** 日光木彫りの里工芸センター内

手鏡、丸盆菓子器などに図柄を彫ることができます。

【料金】920円～(要予約)
【営業時間】9時～17時(15時半最終受付)
【所要時間】約80分
【住所】日光市 所野 2848
【問い合わせ】TEL: 0288-53-0070



伝統工芸 **草履編み** 日光下駄山本 (日光木彫りの里工芸センター内)

細かく裂いた竹の子の皮で編み込んだ草履が作れます。

【料金】片方1,500円税込み～(要予約)
【営業時間】9時～17時
【所要時間】約90分
【住所】日光市 所野 2848
【問い合わせ】TEL: 0288-53-0070 もしくは携帯090-2632-4888



体験 **淡水魚のエサやり・見学** 国立研究開発法人水産研究・教育機構(中央水産研究所日光庁舎)

淡水魚にエサやり体験や研究内容を楽しく学べます。

【料金】大人300円、小・中学生100円
【営業時間】9時～17時(3/20～10月末)9時～16時(11/1～末日) 最終入場受付30分前、冬期休館、10名以上は要予約
【所要時間】約40分
【住所】日光市 中宮祠2482-3
【問い合わせ】TEL: 0288-55-0055



体験 **鬼怒川ライン下り** 鬼怒高原開発株式会社

大自然が創造した渓谷美の極みとして名高い鬼怒川の名物。

【料金】大人(中学生以上)2,700円 子供(4才から小学生まで)1,200円
【営業時間】9時～15時45分
【住所】日光市 鬼怒川温泉大原1414
【問い合わせ】TEL: 0288-77-0531



体験 **湯西川ダックツアー** 湯西川ダックツアー

国産初の水陸両用バスでダム湖クルージング。

【料金】大人: 3,000円、小学生以下2,000円、幼児(2歳以下)500円
【営業時間】8時30分～18時
【住所】日光市 西川478-1
【問い合わせ】TEL: 0288-78-0345




藤原エリア FUJIWARA

古くから鬼怒川、川治の温泉地として栄える旧藤原町。鬼怒川の渓谷沿いに温泉街が開け、毎年、たくさんの観光客が訪れてにぎわっています。

鬼怒川温泉では、7カ所の邪鬼像をスタンプラリー感覚で回る「七福邪鬼めぐり」がおすすめ。温泉街には、邪気を払って福を招くとされる「邪鬼」をモチーフに、益子町在住の陶壁作家藤原郁三氏が制作した「鬼怒太」「鬼怒子」の陶像が、鬼怒川温泉駅前と鬼怒川に架かる橋のたもとに計7体設置されています。観光協会の窓口などでスタンプ帳をもらい、既に押されている鬼怒川温泉駅前広場のスタンプに加え、それぞれの橋に置かれているスタンプを6つ集めると、「邪気払いお守り」がプレゼントされます。

このほか2つの温泉街では、年間を通してさまざまなイベントが繰り広げられていますので、いつ訪れても楽しめます。




邪気を払い福を招く邪鬼をモチーフにした陶像が計7体あります

栗山エリア KURIYAMA

その昔、壇ノ浦の合戦に敗れた平家の落人たちは、源氏の追っ手から逃れて全国に落ちのびたといわれます。旧栗山村の湯西川に逃れた一族が、沸き出していた温泉で傷を癒やしたのが湯西川温泉の始まりとされており、人目をひかないように「五月の節句に鯉のぼりはあげない」などの風習が今でも残っています。

こうした歴史を後世に伝えようとしてつくられたのが「平家の里」。落人たちの住まいや生活の様子が再現され、平清盛、敦盛の像も展示されています。また、平家大祭など平家にまつわるイベントも行われています。

同じく旧栗山村の川俣温泉、奥鬼怒温泉も素朴で味わいのある温泉です。深緑や紅葉など渓谷の美しさが四季折々に楽しめます。健脚の人なら鬼怒川の源流にあたる鬼怒沼へのハイキングもお薦めです。



平家の里

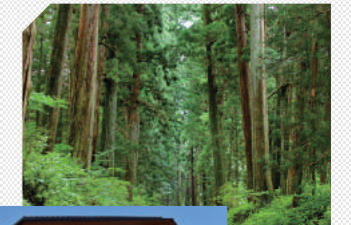
今市エリア IMAICHI

旧今市市は日光街道、例幣使街道、会津西街道が交わる重要な宿場町として古くから栄えました。この街道沿いに植えられ、うっそうとした木陰をつくっているのが日光杉並木です。


徳川家康公の家臣だった松平正綱が20年あまりの歳月をかけて杉を植え、家康公の三十三回忌にあたる慶安元(1648)年、日光東照宮に寄進しました。その寄進碑が、起点となる神橋近くのほか、今市の大桑、山口、小倉に建てられています。

総延長は約37キロ。世界一長い並木道として、ギネスブックにも載っています。また、国内で唯一国の特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けています。

今市は二宮尊徳(二宮金次郎)に大変ゆかりのある地であり、尊徳は70年という生涯を今市で終えています。尊徳がどのような仕法を施したのかを、豊富な資料を通して紹介しているのが、2017年4月にオープンした「二宮尊徳記念館 日光市歴史民俗資料館」です。



日光杉並木



二宮尊徳記念館 日光市歴史民俗資料館



世界遺産日光について

世界遺産は、「人類が共有すべき顕著な普遍的価値を持つ物件」を指します。世界遺産となるには、1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約に基づき、世界遺産リストに登録されることが必要です。

世界遺産に登録された「日光の社寺」は、日光山内にある建造物群103棟(国宝9棟、重要文化財94棟)と、その周りの自然環境が一体となって形づくられている文化的景観です。

日光東照宮・日光二荒山神社の二社、日光山輪王寺の一寺は、その多くが芸術品といってよく、中には日本の古い建築の方法を知る手がかりになる建物もあります。

日光東照宮について

徳川家康公は元和2(1616)年に静岡の駿府城で亡くなりました。二代将軍秀忠公は「一周忌が過ぎたら日光に小さなお堂を建てよ」という遺言を守り、東照社をつくりました。その後、三代将軍家光公が社殿のほとんどをつくり替え、朝廷から宮号が与えられたため、東照宮と呼ばれるようになりました。



日光東照宮には陽明門などいたるところに繊細な彫刻があります。三猿や眠り猫などが有名ですが、想像上の動物で神秘的な力を持つとされた霊獣も多く描かれています。ぜひ見つけてみましょう。



調べてみよう! 1 世界には他にどんな世界遺産があるかな?

世界遺産は人類が過去から引き継いできた宝物です。建築物や遺跡などの「文化遺産」と地形や生物・景観などの「自然遺産」、さらに文化と自然を合わせた「複合遺産」があります。「日光の社寺」は日本で10番目の登録でしたが、国内でもその後増えています。日本や世界にどんな世界遺産があるのか調べてみましょう。



日光山輪王寺について

勝道上人が天平神護2(766)年、神橋のそばに四本龍寺を建立したのが始まりです。輪王寺という建物はなく、お寺やお堂、支院の総称です。その中心が本堂の三仏堂。日光の三山を神体とみて、千手観音(男体山)、阿彌陀如来(女峰山)、馬頭観音(太郎山)がまつられています。三仏堂は現在、「平成大修理」を行っています。

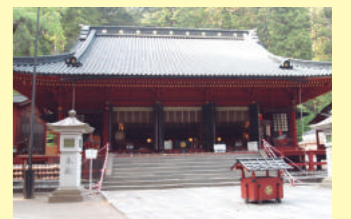


修理中だけど見学できるよ!



日光二荒山神社について

昔から高い山には神が宿っていると信じられていました。日光開山の租勝道上人は、二荒山(男体山)に神様や仏様がいと信じて、苦難の末、初登頂を果たしました。後に輪王寺となる四本龍寺のほか、本宮神社を建て、これが二荒山神社の始まりです。さらに中禅寺湖のほとりに中宮を、男体山の頂上には奥宮をまつりました。



重要! 世界遺産鑑賞のルール

日光の二社一寺は、昔の人たちが大切に守ってきた心のよりどころです。一つひとつの彫刻や建物にはすべて意味があります。つくった人たちの願い、伝えてきた人たちの思いなどを事前に調べ、実際に自分の目で確かめてみるのが大切です。そうすることでなぜ日光の社寺が世界遺産になったのかも理解できることでしょう。



具体的なルートを考えてみよう!

1 行く場所を絞り込もう!

- 1日でまわる場所は限られています。時間がなくなるとせっかくのスポットも見られなくなります。
- 班別行動の場合は、行きたい場所をまずみんなで話し合おう。
- 次に行きたい場所を絞り込もう。
- 行きたい場所はどこにあるのか、おおよその位置を確認してみよう。
- 学校で決められたチェックポイントがあればその位置も考えておこう。

2 効率的にまわるには?

- 効率的にまわるかどうかはルート次第。交通機関や訪れるスポットの情報をばっちり調べてスムーズにまわるルートを考えましょう。
- いいルートは地図で見ると円になる。
- まわる順番を入れ替えてみよう!
- 遠いところやじっくり見たいところは先に行ってしまうのもいいかも。

3 経路や所要時間を調べよう!

- バス停や駅からスポットまで歩く時間も忘れないで。
- 本数の少ないバスなどを利用するときや、長距離を移動するときは、時刻表で乗車時刻や下車時刻を調べておこう。

4 訪れるスポットを事前に調べよう!

- 見学にかかる時間、施設の閉館日や営業時間、入館料、予約が必要かなどを調べておこう。
- 食事や休憩、おみやげを買う時間や場所なども忘れずに。

調べてみよう! 2 日光にはほかにどんな歴史遺産があるかな?

古い歴史を持つ日光には、二社一寺以外にもたくさんの歴史的、文化的な遺産があります。例えば市街地のところどころに建っている銅像。それぞれに今の日光をかたちづくる際に大きな役割を果たした人々たちです。「人」を中心にしてみた日光もまた面白いかもしれません。何度訪ねても必ず新しい発見がありますよ。



● 自分のこと

身元控え

なまえ _____

血液型 _____ 型 Rh _____

学校名 _____ 年 組 _____

学校住所 _____

☎ _____

自宅住所 _____

保護者氏名 _____

☎ _____

● 保険証 (控え)

万ーに備えて

保護者と相談して記入する

保険証の種類 ①社会保険 ②国民健康保険 ③共済組合保険
④健康保険組合 ⑤その他()

記号 _____ 番号 _____

被保険者名 _____ 男女 S H 年 月 日生

事業所名 _____ S H 年 月 日交付

事業所所在地 _____

保険者所在地 _____

保険者番号 _____

保険者名称 _____

児童と被保険者との続柄 _____

修学旅行保険 契約証 No. _____
保険会社名 _____

● 持ち物リスト

↓ 確認したら
チェックしよう!

↓ 確認したら
チェックしよう!

タオル2~3枚	
バスタオル	
歯ブラシ、歯磨き粉	
ヘアブラシ	
ハンカチ、ティッシュ	
着替え(宿泊数分)	
くつ下(宿泊数分)	
下着(宿泊数分)	
パジャマ、体育着	



水筒	
ナップザック・ショルダーバッグなど	
こづかい	
カメラ	
雨具(傘・パーカーなど)	
薬(酔い止め/ばんそうこうなど)	
筆記用具、メモ帳	
旅のしおり	
ゲーム(みんなで遊べるもの)	



緊急連絡先

先生の携帯: _____

自宅電話: _____

保護者携帯: _____ 本人との続柄: _____

宿泊所

宿舎名(1泊目): _____ ☎ _____

所在地: _____ URL _____

宿舎名(2泊目): _____ ☎ _____

所在地: _____ URL _____



日光ガイドブックダイジェスト!

日光ってどんな所かみんな知ってる?貴重な文化遺産や迫力満点の自然がいっぱい。面白い発見や不思議な事もたくさんあるよ! ぼく日光仮面が、日光の見所を教えます!

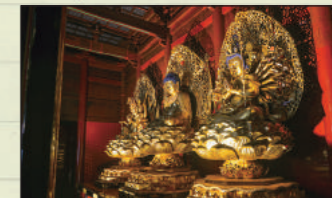
日光東照宮

江戸のほぼ真北にあり、日本全国の東照宮の総本社の存在です。輪王寺本坊、大猷院廟、二荒山神社と共に「日光の社寺」として世界遺産に登録されています。



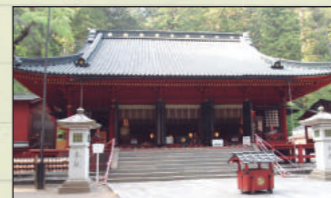
日光山輪王寺

輪王寺という建物はなく、お寺やお堂など総称です。その中心が三仏堂と呼ばれ、高さ約7.5mの千手観音、阿弥陀如来、馬頭観音の三仏をまつています。



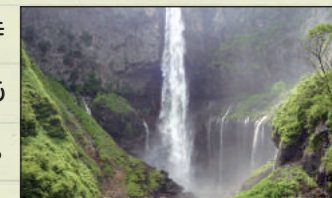
日光二荒山神社

790年勝道上人が建てたことがはじまりです。鎌倉時代以降は幕府、豪族の信仰を集めました。一般の人々の参詣も絶えません。本殿は重要文化財に指定されています。



華厳ノ滝

中禅寺湖から流れ出る日光で最も有名な高さ97メートルの滝で、日本三大名瀑の1つです。明智平の展望台から中禅寺湖や男体山を滝とともに見ることができます。



眠り猫

日光東照宮にある最も有名な彫刻。眠り猫の後ろには雀の彫刻があり、共存共栄や平和を象徴し「猫も寝るほどの平和」を表しているのであると解釈もあります。



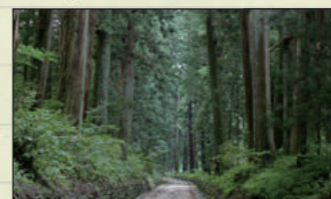
三猿

日光東照宮の神厩舎という建物にある彫刻。子育てから恋愛、結婚、妊娠と人間の一生が表現されており、中でも三猿は見ざる・言わざる・聞かざるを表しています。



日光杉並木

総延長は約37キロメートルに及び、世界最長の並木道としてギネスブックに登録されています。全国で唯一特別史跡および特別天然記念物の二重指定を受けています。



奥日光

日光国立公園のうち、華厳ノ滝より西の地域。中禅寺湖・男体山・戦場ヶ原などがあり、湯ノ湖などから広がる湿原と水域は、2005年ラムサール条約湿地に登録されました。

